



## (70) PHS巨大市場が消失

11年までにサービス全面停止

野村総研(上海)咨询有限公司

中国政府の工業・情報化部は旧正月が明けた2月6日、通信会社に対してPHSサービス(中国名・小靈通)の新規契約を停止するよう通達した。PHSサービス自体も2011年までには停止するため、既存ユーザーはほかの移動通信手段への切り替えが必要になる。

### ◇3G独自規格を優先

PHS技術を生んだ国である日本にとって、今回の突然の決定は大きな衝撃だっただろう。中国の総合通信機器メーカーである中興通訊(ZTE)とPHS最大手のウィルコムが、次世代PHS「XGP」技術の共同開発で合意したと発表したばかりである。これまでPHSの海外市場で大きな存在感を示してきた中国のまさかの方針変換は、PHS陣営にとってかなりの痛手だろう。

なぜPHSサービスを全面停止するのだろうか。それは周波数の割り当て問題が原因である。

PHSがこれまで使用していた周波数帯域は第3世代(3G)携帯、それも中国独自の国際規格であるTD-SCDMAに隣接する=表1=ため、TD-SCDMAを優先し、技術的に将来性が不透明なPHS規格は市場から締め出そうというのである。

〔表1〕

周波数 (MHz)	通信規格	通信事業者
1880-1900	TD-SCDMA	中国移动
1900-1920	PHS	中国电信・中国联通
2010-2025	TD-SCDMA	中国移动

### ◇既存ユーザーの奪い合い始まる

中国のPHSは移動体通信の一種ではなく、固定電話の延長線上に位置付けられている。固定通信事業者の中国电信と中国網通のサービスとして市場展開し、06年のピーク時には一時的に1億ユーザー近くにまで達した。その後、携帯電話サービスの値下げが進むとともに価格競争力を失い、ローミング(相互接続)が弱いなど技術上の欠点もあって、だんだんとユーザーが離れた。それでも08年末時点でユーザー数は約7000万で、そのうち中国电信は約4000万、中国联通は約3000万である=表2。ユーザーは都市部ではなく、主に農村などの地方に分散している。

〔表2〕

通信事業者	2G(億)	PHS(億)
中国移动	4.5	0.0
中国电信	0.3	0.4
中国联通	1.3	0.3

中国移动はTDを武器に、このユーザーを低価格戦略で獲得する姿勢をみせている。一方の中国电信と中国联通は既存ユーザーを守り、もともと弱い移動体ユーザー基盤に加えようとしている。既存ユーザーをスムーズに移動体通信に誘導するため、両社が検討している競争戦略(料金対策・端末対策・番号対策)には次の3つがある。

a) 既存PHS料金プランと同様の2G/3Gプランを用意する。

b) PHS端末買い替えの際に2G/3GとPHSの自動切り替え端末を提供するか、2G/3G端末を無料で提供。ユーザーに端末の負担をさせない。

c) PHSユーザーに着信自動転送サービスを提供し、しばらくPHSの番号を使えるようにする。あるいはPHSの番号(8ケタ)の前に携帯電話番号(3ケタ)を付け、継続性を保つ。

PHSユーザーの7割以上はほかの移動通信手段に切り替えたくない、という調査もあるが、各事業者はユーザーの奪い合いを始めている。しかし7000万ユーザーを携帯電話に無事移行することは、どの事業者にとっても容易でないことは間違いないだろう。残されたPHSユーザーは今後社会問題になりかねない。



主任コンサルタント  
吉永 康榮